

野川

湧水を集めて流れる川

野川の源流は国分寺市内の日立中央研究所内の大池や、真姿の池などの多くの湧水群ですが、調布市内でも2箇所の水路に集められた湧水が流れ込んでいます。

ひとつは深大寺のハケ下、深沙堂裏から流れ出す湧水でこれは水生植物園の中を通り、大橋上流へと流れ落ちる水路。

もうひとつは都立農業高校神代農場の崖下から湧き出る水で、こちらは佐須用水として地域の田んぼを潤しながら細田橋下に流れ落ちています。



深大寺敷地内を流れ出した湧水は住宅の合間をぬって大橋の少し上へ流れ落ちる。野草園の北側、神代農場は崖線の谷戸となっており、豊富な湧水が佐須用水となって細田橋下へ流れ落ちる。



こんなトマトが芽生えたり、大きな鯉が泳ぐのは自然の湧水でできた野川にはふさわしくない。冬場は冬毛の力毛などをみられるのがうれしい。

◆ニンギョウトビケラ 名前の由来
この名の由来は、山口県岩国市の錦帯橋での昔話に出てくる「石人形」に由来されると言われています。岩国市を流れる錦川はかつて暴れ川で、橋を架けても架けても直ぐに流されてしまうことから、村の二人の娘による「人柱」によって橋が流されなくなった後、その付近で「石人形」、つまり、ニンギョウトビケラが見られるようになったという悲しい伝説です。その人柱になった二人の娘を偲んで、事故や災害、厄除け等のお守りとして現在でも巢を加工して作られた「石人形」が売られているとの事です。

調布の生き物 虫編

野川の生き物

トビケラやカゲロウなどの昆虫が、「水生昆虫」として水中にいるのは、成虫以外の状態で、活発に活動しているのは幼虫です。中でもトビケラの幼虫は、イモムシ型であり、蛾や蝶の幼虫と似ています。同じトビケラの仲間でも、水中での活動形態が種によってそれぞれ違い、そのまま歩き回っているものもあれば、「ミノムシ」のように、常に筒状の巣の中から頭と脚を出して活動しているものもあります。外敵から身を守る手段ですが、少し大きめの魚などは巣ごと飲み込んでしまう事もあるので気を抜けません。

ニンギョウトビケラは、小石を集めて巣を作りますが、大き目の石を両側にだいたい3個づつくつけているのが特徴で、種を同定する目安になります。「ややきれいな水」に生息する種類となっていて、野川では、夏でも水温が極端に高くなると湧水の流れ込む所などでまとまって多く見る事が出来ます。(宮治隆博)



花の履歴書 ⑮

戸部英貞 (絵・文)

オオバジャノヒゲ (大葉蛇髭)
キジカクシ科



Ophiopogon planiscapus Nkai

今年の干支は「蛇」。植物の中にもヘビイチゴ、ヘビノネゴザ、ヘビノボラズなど蛇の生態から付けられたと思われるものやマムシグサ、ヘビノシタ(ヒメハナワラビ)は蛇の姿から名付けられたものがある。アメリカにも Snake Mouth (蛇の口) と呼ばれているアメリカトキノウがある。

ジャノヒゲ属 (Ophiopogon) はギリシャ語の ophio (蛇) と pogan (ひげ) を語源とし、和名の「ジャノヒゲ」はそれを直訳したものだが、日頃は特別に疑問にも持たないで使っているジャノヒゲ、オオバジャノヒゲの和名だが、蛇には髭はなく、髭を生やせば昨年の干支の辰(龍)で、ジャノヒゲはリュウノヒゲ、オオバジャノヒゲはオオバリユウノヒゲと呼ぶのが相応しいかも知れない。

この仲間 (Ophiopogon) には

ジャノヒゲ、ナガバジャノヒゲ、ノシランなどが日本全国の山林の樹下で普通に見られ、一年中緑色の葉を生やし、日影にも強いことからグラントカパーとして古くから庭園の下草に使われてきた。

初夏の頃、花茎を伸ばし、淡紫色から白色の花を咲かせ、秋には藍色の実を結ぶので、黒熟する類縁のヤブランやヒメヤブランとは区別できる。園芸品種として、ジャノヒゲのチャボリュウノヒゲ(玉龍)、オオバジャノヒゲの葉が黒い「黒龍」、ノシランの斑入り種などがあり、グラントカパーや鉢植えとしても観賞されている。

園芸植物としてのほかオオバジャノヒゲの根は生薬名を「麦門冬」と呼んで滋養強壮、痰咳、気管支炎などの風邪の症状、糖尿病などの漢方薬としても利用されている。

若葉の森に「怪鳥」現る

朝、野鳥のさえずりで目が覚めることがあります。近くに「若葉の森」のおかげです。昨年十一月七日、立冬の朝もそうだったのですが、少々違和感が。「キミ、確かにすごくいい声だよ。でも、そこまでポリウムを上げなくてもいいんじゃない。もう少し抑えて歌ってごらんよ...ムニャムニャ」と半分夢の中でつぶやいていました。二階の窓から覗いてみたが、声の主は見えず。一階の雨戸を開けて庭を見ると、おや、数メートル先に土をほじくっている見慣れぬ鳥が。雨戸を繰る大きな音がしたはずなのに、変に凶たく、逃げようとしないう。目が合う。なんと、こいつ、白縁のゴーグルをしている。それ以外は地味な茶褐色で、体長はスズメの2倍ぐらいいか。

人間の勝手で「お尋ね者」にあわてて『日本の野鳥』(山溪ハンディ図鑑)

り、長期的には在来種への悪影響も心配と。危うし? 「冬の使者」

ガビチョウと遭遇して数時間後、なつかしい鳥とこの冬初めて会いました。ジョウビタキ。シベリアや中国東北部から渡ってきて、毎冬、ウチの辺りを縄張りにするのがいます。枯れ枝に止まっては尾を小刻みに震わせ、地面に下りて虫をついばむと、次の巡視ポイントに向けて飛び立っていきます。ガビチョウもジョウビタキも、庭仕事で地面が掘り返されたような場所が好き。だから、両者が縄張り争いをしているのでは? そういえば、ジョウビタキを見かけることが少ないような。人間の勝手な振る舞いが、他の生きものたちの

若葉の森から

○(五年発行)のページを繰るが、何度見返しても該当者なし。土をほじる間は寡黙で、さっきの「美声」との関係も不明。モノは試し、キーワード「鳥」「白いメガネ」でネット検索してみると、ヒット! ガビチョウでした。「ガビ」は「画眉」(画眉で描いた眉)らしい。ユーチューブには鳴き声の動画もありました。

このガビチョウ、じつは環境省指定「特定外来生物」。いわば「お尋ね者」。もちろん、鳥自身には何の罪もなく、もっぱら人間の事前勝手の結果。中国では古くから鳴き声が尊ばれ、日本にも輸入されて一時はブームに。しかし全体に地味な姿や「すり餌」をやる面倒もあって長続きせず、逃げたり放されたのが野生化した。環境省のサイトには「生態系に関わる被害」として、定着した「九州・本州の低地林等の里山の森林において(中略)最優占種となり、群集構造が著しく変化して」お

争いのもとになっているとすれば困ったことです。人間同士の縄張り争いは、もっと厄介ですが。(大村哲夫)



ジョウビタキ(雄)
2010年11月18日撮影



ガビチョウ 2011年11月7日撮影

入間・樹林の会

11月18日(日) 晴れ 参加者6名

ツバキの森の中に落ち葉ため2か所目を整備した。Kさんの呼びかけによる助っ人が新たに力を発揮してくれたので完成した。土が柔らかく、前回よりも杭の打ち込みに苦労した。倒木や枯れた竹などを片づけ、スタッキングの山を2か所にまとめたので周辺はすっきりした。

花は、ツワブキ、マンリヨウ。実はヤブミヨウガ、マンリヨウ、ヌスビトハギ、チヂミザサ、マテバシイ、コナラ、シラカシ、キンラン、ハエドクソウ、ヒナタイノコスチ、ヤブラン。鳥はヒヨドリ。



ツバキの森に落ち葉ため完成

12月16日(日) 晴れ 参加者6名

民有地に張り出していたクヌギなどの枝を伐採されたので雑木林広場は明るくなった。今後の植生への影響をみていきたい。

落ち葉ため周辺の片付けを行った。ツバキの森では、細いツバキやアオキなど細い木を伐採、枝と葉に分けてその時々処理をしていくように心がけるよう確認した。

花は、サザンカ・ツバキ・ツワブキ。実は、マンリヨウ・センリヨウ・ヤブミヨウガ・ヤブラン。アイビーもリース素材として活用できる。鳥はヒヨドリ・メジロ・ツグミ・シロハラ。(安部)



リースづくりにご満悦



センリヨウの実



ツワブキ

カニ山の会

11月10日(土) 晴れ 参加者5名

翌日のドングリイベント準備のため、竹の切り出し。

11月11日(日) 晴れ スタッフ6名 一般参加者12名

今回で5回目になるドングリの森づくりイベント。子ども達とドングリ体操で体を暖めてからドングリ拾い。今年はドングリが豊作のようで昨年より沢山のドングリが落ちており、資料や実物見本を見ながら拾ったあとは竹ポット作りを楽しみました。



ドングリ体操



ドングリの選別

終了後は同日に行われていた若葉緑地の会の親睦会にお邪魔し、イベント参加者も豚汁をご馳走になり、満足のいくイベントになったと思います。

12月8日(土) 晴れ 参加者7名

南斜面下のササ刈りをしました。2m以上のササもあり、何か利用できるかもしれないと、切り出したササは上下揃えて山積みになりました。刈り取ったあとは沢山の実生の苗や立派なヤブラン(種名要確認)が見られました。(鍛冶)



若葉緑地の会

11月11日(日) 曇り 参加者11名

メンバー間の親睦を図るため、深大寺自然広場に集まり、各自が下ごしらえした材料で豚汁を作りました。自然広場で見つけたムクノキの黒く熟した実は食べられることを初めて知りました。雨にも降られず、楽しい一日を過ごしました。



11月22日(木) 晴れ 参加者3名

草刈りと伐採枝を整理し、ヒヨドリジョウゴの赤い実を見付けました。

12月9日(日) 晴れ 参加者15名

間伐、間伐材置場の再整理、花壇の手入れ、アズマネザサ刈り、落葉掃きなど、参加者が多く作業がはかどりました。太

若葉の森3・1会

11月4日(日) 晴れ 参加者9名

第1緑地のなかに積んでいた古木を脇に片付け(写真)、また、通路と下屋敷坂の落葉かきをして歩きやすくしました。

第1緑地と第2緑地の間の階段最上部が傾斜して滑りやすいので、側壁を造り平坦にしました。

第2緑地ではキンラン・ギンランの群生地を保護するため竹柵を試作しました。

12月2日(日) 晴 参加者5名

穏やかな冬の陽射しに映える第2緑地の黄葉の下、先月試作した竹柵を延長しました。竹を差し込んだのですが、しなりを利用して容易に抜けません。(N&K)



12月20日(木) 晴れ 参加者4名
落葉掃き、落枝の片付け、アズマネザサ刈り、実生の幼木の保護柵作りを行いました。本日で楽しかった今年の活動は終了しました。来年も、よろしくお願ひします。(住田)



1. 古木を整理してすっきり
2. サガミランモドキ
3. 階段最上部の補修



4. 黄葉と竹柵作り
5. ピナンカズラ



6. はめ込み式の竹柵
7. 長く伸びた竹柵

平成 24 年度調布市雑木林塾

雑木林塾・初級～ 第3・4回

11月28日(日)・12月22日(土)

11月「雑木林はどう育て維持されてきたか」

午前中は入間地域福祉センターで根本講師の講義。

樹木の伐採で陰地↓陽地へと変化することにより草地↓疎林↓樹林↓また草地・・・という土地のサイクルのなか、多様な生物が生育していくこと。その多様な植生の姿を、万人が共有できる方法で記録する方法。都市の樹林地の特徴として小面積となった樹林地ほど、さらなる面積の縮小をもたらす、裸地化や外来種の侵入がたやすく生物数の減少が著しくなること。そのため行き過ぎた管理には注意が必要なこと。雑木林の主要な植物としては、下草刈りに適した丈の低い草・定期的な伐採に適応している木・落ち葉かきに適している植物・光条件の変化に適応できる植物などがあること等々についてお話を伺った。



12月「雑木林の作業に必要な安全管理と技術」

実際の作業用具について小島講師から使い方を教わる。あいにくの雨だったがカニ山にターフ代わりのブルーシートを張り、ノコ・カマなどの道具を使いながら保全作業での用途や使い方、手入れの仕方を学んだ。シートの張り方も野外作業学習の一環となった。午後は北部公民館へ移動し、「雑木林の作業に必要な安全管理」として主に熱中症などの健康管理やハチ・ウルシなどの危険な動植物への対処の仕方についてのお話。

午後は入間1丁目樹林地での植生調査を講師のデモンストレーションにより塾生全員で実際に行った。→

その後は若葉緑地などを見学、保全活動グループからの説明を受ける。↓



ポイズンリムパーの使い方

主催：環境政策課 企画運営：ちょうふ環境市民会議

手作りクラブ

河原・雑木林・田んぼ 色々な所の自然の恵みを使って 楽しい小物作り



多摩川の河原で採ったクズの蔓を使ってカゴやクリスマス飾りに使えるオブジェ。左はアケビの蔓でカゴを作っている。細めの蔓は繊細な仕上がりに。



←クズで作ったリースに写真を飾る



→田んぼの学校で収穫した稲藁は注連縄にして、正月飾りになった。

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 1/20(日) 9:30～12:00
- 2/17(日) 9:30～12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 1/12(土) 10:00～12:00
- 2/9(土) 10:00～12:00
- ★ 1月12日は新年山開き、キャンプ場での懇親会をします。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 1/13(日)・24(木)
 - 2/10(日)・21(木)
- いずれも9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1緑地・第2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 2/3(日) 9:30～12:00
- ★ 1月の活動はお休みです。

◆先の4つの活動への参加
その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

置き場所&応援カンパ募集中です!

◆“自然だより”の置き場所：地域福祉センター、たづくり11F みんなの広場、調布市環境部（市役所8F）、市図書館10館、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、ぬくもりステーション、野菜食堂みさと屋さん、横浜銀行調布支店など。置き場所&応援カンパ募集中です!